



東久保切り土区間



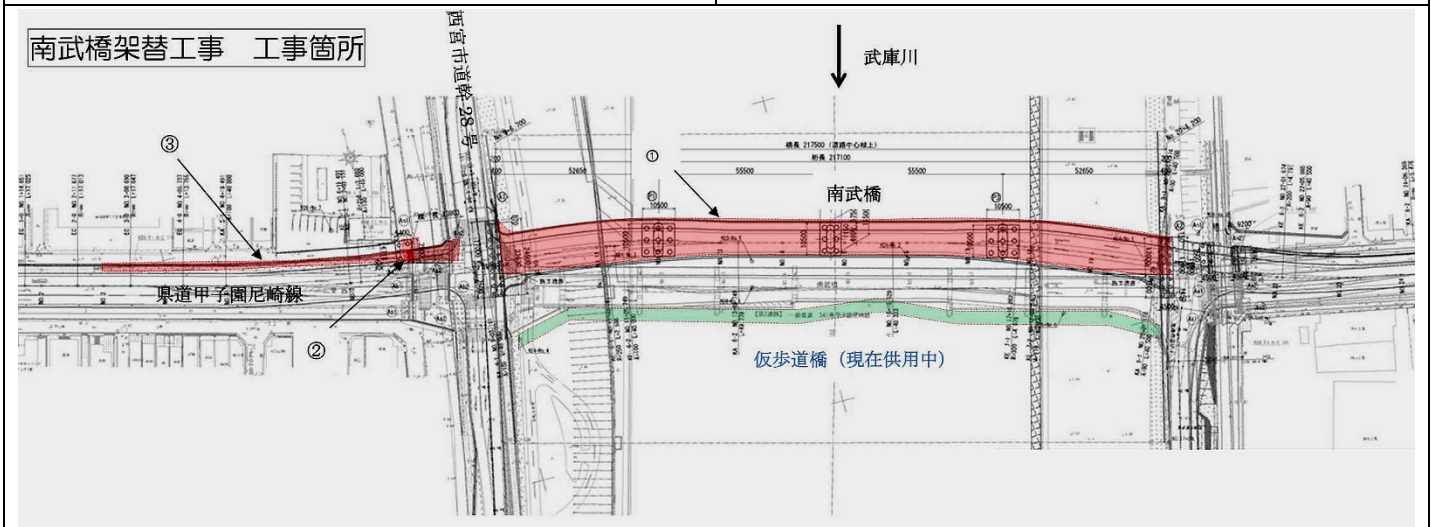
名塩川直線化工事始まる



名塩盛り土区間



堰上げ方式からパイプ取水になり川の縁が切れた名塩棚田



7月始めの大雨以来降雨もなく暑さに閉口する日々が続き、水量も少なく水温 30 度越の日が続いた。アユにとっては厳しい環境だったと思うが小魚の群も観察する事ができ、生きものたちも何とか夏の暑さを凌ぎ切ったように見える。宝塚観光ダム下流礫付着生物調査した。藻類の種数も量も少ないものの小さなカワゲラ多数観察。アユが食べるの分からないが、ほかの魚類の胃袋は満たしてくれることだろう。アユは観察出来なかったものの小魚は群れていた。

名塩道工事は順調に進み名塩川直線化工事区間の付け替え部掘削工事で橋脚基礎工事が進み景色が一変。直線化工事現場に詳細図の掲示はなく完成時の姿は分からないが、現行より川幅広くなるような印象を受けた。名塩川が道新設の影響を大きく受けるのは直線化区間だけのようであるが、盛り土区域、掘削区域は相当大幅な景観が変わることが容易に想像出来る。名塩棚田でハザカケ作業中の方に農業用水について話を聞いた。水が足りなくなることはないが水路をさわられ堰上げ取水していたが上流からパイプ取水しなければならなくなって田圃と水路の縁が切れてしまったと吐いて捨てるような口調で答えたのが印象的だった。小さな川でも改修工事の影響を受ける人の多さを感じる。

南部橋架け替え工事も着色部工事は終えたが、左岸側は堤防上でストップ。利権者との調整難航しているのだろうか。